

〈6月の御言葉〉

「ノアの信仰への招き」(創世記6章9節)

創世記に「ノアの洪水の物語」が記されています。雨は40日40夜降り続き、洪水は地を覆い、水は150日の間、地上で勢いを失うことはありませんでした。この衝撃的な物語はわたしたちに何を物語っているのでしょうか。

一つは人間の罪の姿です。人々は自分の心の声に聴くばかりで、神の御声に耳を傾げることを怠っていました。そのため人々が思い計ることは、自分を満たすことばかりであり、神と人とを愛する道から離れてしまったのです。聖書には「常に悪いことばかりを心に思い計っている(5節)」と記されています。

もう一つのこと、箱舟に入って救われ、洪水後の新しい時代の先駆けとなった、ノアとその家族の生き方です。ノアは常に神と共に歩む人でした。ですから雨の気配などないのに「箱舟を造りなさい」との神の御声を聴くことが出来たのです。彼らが身を託したこの箱舟には普通の舟とは違い、オールや帆のように舟を動かす装置はなく、ただ水の上に浮かぶことしかできません。けれども、それはまさに神を信じ、神の御手にすべてを委ねて生きる者たちの姿そのものではないのでしょうか。

このようにノアの洪水物語は、わたしたちの生き方に対する警告であると共に、信仰に生きるノアの生き方への大いなる招きにほかなりません。

(久野真一郎)